

プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究

東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況

研究分担者：青木 正志 東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経内科学分野
研究協力者：加藤 昌昭 総合南東北病院神経内科

研究要旨

【目的】東北地方におけるプリオン病の疫学、臨床症状等を調査し、解析する。

【方法】2018年度（平成30年度）における東北地方在住で新規申請されたプリオン病疑い患者についてのサーベイランスを行った。プリオン病が否定的な症例については電話にて調査を行い、プリオン病が疑わしい症例に関して、宮城県の症例については実地調査を行い、その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼し調査を行った。

【結果】プリオン病疑いとして調査依頼を受けた症例は、2018年度の1年間で25例であった。内訳としては、青森県3例、岩手県4例、宮城県11例、山形県5例、福島県1例であった。遺伝子変異を伴う例、家族性のプリオン病の症例は全体の10%でV180I変異が東北地方では多い。

【結語】東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況を報告した。今後も継続的に調査を行うことが必要であると考えた。

A. 研究目的

東北6県におけるプリオン病の疫学、臨床症状等を調査し、解析する。

B. 研究方法

2018年度（平成30年度）における東北地方在住で新規申請されたプリオン病疑い患者についてのサーベイランスを行った。プリオン病が否定的な症例については電話にて調査を行い、プリオン病が疑わしい症例に関して、宮城県の症例については実地調査を行い、その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼し調査を行った。

(倫理面への配慮)

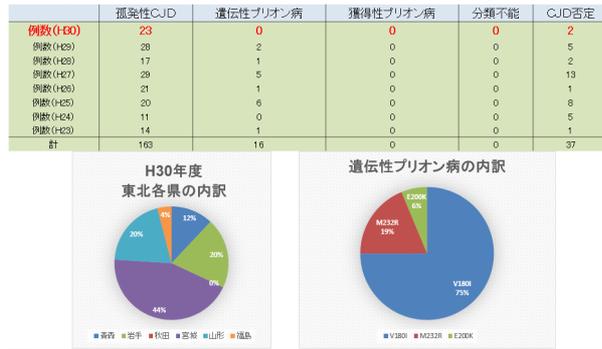
患者個人情報取り扱いに関しては匿名化を行い、患者、家族にサーベイランスに協力いただくことに関して書面にて同意を取得

した。

C. 研究結果

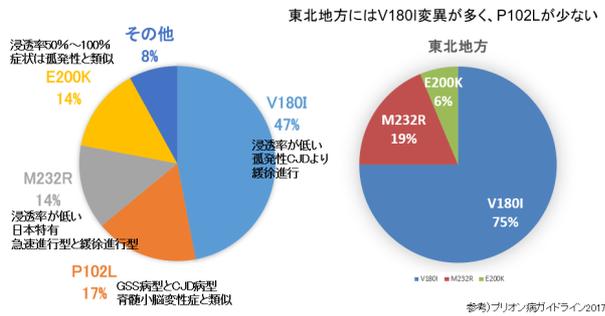
プリオン病疑いとして調査依頼を受けた症例は、2018年度の1年間で25例であった。内訳としては、青森県3例、岩手県4例、宮城県11例、山形県5例、福島県1例であった。

平成30年度東北地方(6県)総計



遺伝子変異を伴う例、家族性のプリオン病の症例は全体の10%でV180I変異が東北地方では多い。

【遺伝性CJD(日本と東北地方)】



なお、未報告症例の99例については再調査を行っている。

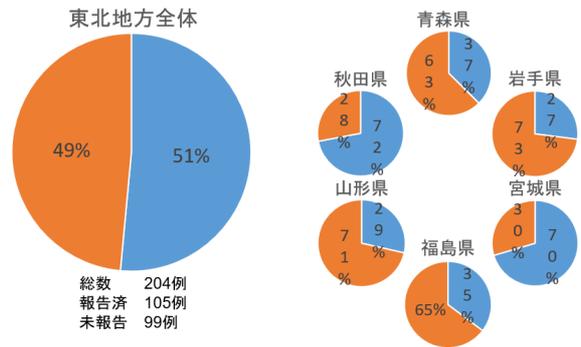
D. 考察

プリオン病発症率は東北6県人口約1,000万人とすると、年間発症率は約0.23人/10万人/年であり、おおむねこれまでと同様の発症率であった。

E. 結論

東北地方におけるプリオン病のサーベイ

サーベイランス調査の状況 (2011~2018)



ランス状況を報告した。今後も継続的に調査を行うことが必要であると考える。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし